

東京女子大学
2026年度 帰国生入学試験

現代教養学部 人文学科 日本文学文化専攻

小論文

日本語悲観論——バブル崩壊もあるか

これまでに、日本国内でも海外でも外国人による日本語使用が増大したことをみた。日本語の使われ方は確かに国際化した。では、将来はどうだろう。これは経済の長期見通しと似ている。または長期の天気予報と似ている。現在の動き以外に具体的な数値や理論的な裏づけを持たないと、無責任な希望的観測に終わる可能性がある。日本語はバブルを体験した。日本語のバブル崩壊もあるだろうか？ 戦後の日本語の勢力は日本経済と並行的に上昇したが、運命共同体を形成するのだろうか。

皮肉なことに、一人一言語を見直して、最低一つの外国語を身に付けようとする、現在のところは、日本でも外国でも英語がトップになる。その次の言語として、隣接地域の有力言語が選ばれることになる。日本語は今も景気がよく、国際化への道を歩んでいる。しかし斜面を転がる雪玉のように、大きいものがますます大きくなり、中途半端なものは成長をやめる恐れがある。日本語人気は一時的なもので、地方都市の人口のように、一時集中しても結局は東京一極集中によって減ったというプロセスが思い浮かぶ。

どうも競争相手の英語が、現在トップだという理由で、雪だるま式、幾何級数的に成長しそである。国際共通語、グローバルスタンダード、デファクトスタンダードとしての英語使用が、二十世紀末期以降ますます盛んである。

EJ発足、ソ連の崩壊で、以前の民族（つまり大体は言語）単位の国家の位置づけが変わった。同一言語使用者でも宗教や肌の色が問題になって分立したり、一方、異なった言語の使用でも、より大きい単位への帰属意識が現れたりしようとしている。また、危機に瀕した言語の救済、少数言語の復権の運動があり、一国内に多くの言語の併存が主張されている。

日本は、言語・民族・国家の領域が一致する、三位一体の珍しい国といわれる。しかし現在はその言語の使用域が、内からも外からも動いて、国境と重ならなくなっている。もし北方領土が返還されれば今度は国境が言語と関係なく動くことになる。日本語は、国家・民族の強固な後ろ盾を持っているので、今は安泰だが、その後ろ盾の意義が以前とは違ってくる可能性がある。国の外でも中でも、他の言語と役割分担をしなければいけなくなる。つまり使用場面という言語の地位の面で、守備範囲が狭められると予想される。

くずれたカステラとしての日本語

このように日本語は地位の面で性格を変えつつあるが、外来語の受け入れを先駆けとして、ことばのしくみの面でも昔の日本語と性格を変えた。

カステラの比喩を使うと、現在の日本語は上から押されて、中からくずれた状態である。上の場面から英語に押されて、英語の圧力を受けている。これは地位レベルでの話である。そのためことばの実体レベルでの変化が進行中である。中身がくずれて、すかさずになり、そこに英語からの外来語が入りつつある。単語レベルの影響だからまだ大丈夫という議論があるが、今は文法に及び、発音も影響を受けている。遠い将来は文法や発音でもさらに英語の影響が強くなると予想される。ただし、幸いまだ下の台は腐っていない。今は日本で生まれた人はほぼ全員が日本語を身に付けている。ほんの少数、日本語を捨てる人はいない。英語留学を試み、ついには「在外日本人」になった人々である。

もし将来、日本語を習得しない日本人が増えてきたら、日本語は減り行く言語、危機言語への道を歩むことになる。二十一世紀には地球上のかんりの言語が失われるだろうと予測されている。言語の絶滅は、最後の話し手が死ぬことではない。その前に、使う話し手がなくなつたときに、コミュニケーション手段としての機能は終わる。それ以前に、若い話し手がなくなつたときに、絶滅が予告されたことになる。日本産トキの絶滅も、卵から雛が生まれなかつたときに、絶滅宣言されたことになる。

日本の国土でも、アイヌ語は百年かそこらのうちに絶滅への道を歩んだ。アイヌ語で起きたことが日本語で起きるだろうか。話し手の数が世界で一〇位以内に入る大言語であり、しかも近代社会に十分に適応し、宇宙開発も原子炉建設も飛行機生産も、自動車・コンピュータの生産も、すべて自国語でまかなえる言語では、まずありえない。

日本人の「言語忠誠度」

しかし、日本人は日本語を簡単に捨て去るという観察がある。第一章第三節でみたハワイ日系人や南米の日系人が典型である。ペルーのフジモリ元大統領をはじめ、現地で活躍している二世には日本語を使いこなせない人が多い。アメリカ合衆国の中で何世代もドイツ語やオランダ語を使う集団が残っているのと違う。またブラジルのドイツ系の人の方が日系より母国のことばを残す。

この原因は色々ある。アメリカ大陸で移民が固まって集落（コロニア）を作って暮らしたか、宗教などが求心的作用をもたらしたか、などである。単に日本人だから日本語を簡単に捨てたとはいえない。かつてアジアの植民地で日本人がどう振る舞ったかもあるべきである。朝鮮半島でも旧満州でも、日本人は現地の人に日本語を押しつけ、自分たちは現地のことば（朝鮮語や中国語）をほとんど学ばうとしなかった。日本人の子供（つまり二世）も日本語のみを使った。

移民がどの程度もとの言語を保つかは、「言語忠誠度」として計測できる。日本語については、一概に低いとはいえない。移民先で日本語が社会的にどう位置づけられているかで、違う。

言語の経済的な価値も影響する。日本人は、ことばの社会的・経済的上下関係に、敏感である。下位と見なす言語に対しては、日本語を押しつける。しかし上位の言語とぶつかったときには、日本語を簡単に捨て去る。日本人としての主体性、アイデンティティを保つために日本語を話すという雰囲気は盛り上がりがない。つまり、何世代かで、日本語の話し手がいなくなり、移民の連んでいった日本語は死語になる。

「言語他殺」と「言語自殺」

ことばが死ぬには二つの道がある。「言語他殺」と「言語自殺」である。

「言語他殺」の典型は、話し手の死亡である。また言語そのものの取りかえもありうる。アイヌ語で起こったプロセスである。植民地の移民の言語などを見ても、たいていは三世代が必要である。家庭内で、二世の親世代が一世の祖父母世代と三世の孫世代の通訳の役割を果たすのだ。幸いに言語変化はゆっくり進む。コミュニケーションの手段だから、大きく変わると役立つのだ。この点、親と子の断絶が心配である。コミュニケーションが同世代、家庭外で行われると、親と異なったことばを使っても不便は感じないことになる。日本語の使われる場面が縮小するの、言語他殺への道程である。居場所を少しずつ奪うわけである。ことばの地位にかかわる現象で、国際化の避けがたい一面ともいえる。

一方、言語の絶滅、言語の死亡にはもう一つの道がある。「言語自殺」である。言語そのもののしくみがほかの言語のものに置き換わるプロセスである。日本語は大量の外来語導入により、その「言語自殺」への道を歩みつつあるのだろうか。文法が英語などと違うから、時間がかかるし、二つの言語を混ざる「混合語」にもなりにくい。恐らく日本語は生き延びる。

ここでいうのは、人類の絶滅とどちらが早いかわからないというレベルの言語死亡である。子供の頃、核兵器による人類絶滅を心配していた。今は冷戦構造が消滅し、人類が死に絶えるかどうかは心配しなくていい。その代わりに生物種の絶滅や言語の消滅の心配をするようになったわけである。

受 験
番 号

東京女子大学
2026 年度 帰国生入学試験

現代教養学部 人文学科 日本文学文化専攻

小論文

2/2

② 日本語の生き残りをさらに確実にする方策としては、自国語を大事にすることが重要である。しかし国語純化運動は、世論を見ると、今のところ起きそうにない。フランスの転身は象徴的で、以前はフランス語から英語の外来語を排除しようとした。その後、フランス国内では必ずフランス語を使うべきだ（英語だけの広告などは許さない）という政策を打ち出した。これまでは実体を守ればよかったが、今は地位の保全へと姿勢を変える必要が生じたのだ。前世紀まで外交語として華やかだったフランス語が、本国で悪戦苦闘しているわけである。

経済原理に替えられない母語

世界中の言語が英語との併存を強いられ、地位が落ちていく。バイタリティーがなくなる過程にある。ことばが経済価値を持つ面が、二十世紀以降、顕著になった。そうすると通貨と同じく、どうせ国際通貨を持つなら一番強い通貨（かつてのドル）を持つように、集中する。経済学では「悪貨は良貨を駆逐する」というが、経済言語学的には「大言語は小言語を駆逐する」といえる。この場合の「大」「小」とは、言語の市場価値が高いか低いかである。

現代世界の言語の動きは流動的である。新聞でも世界各地の言語状況が刻々と報じられる。その流動の原因は、政治的なものもあるが、根本には経済的な要因がからんでいると、読み取れる。

日本はバブル経済を体験した。海外の日本語ブームはバブルの余波なのだろうか。外国語としての日本語学習者は、母語に戻れるし、別の言語に乗り換えられる。しかし日本国内の日本人にとっては、今のところ日本語以外よりどころになる言語はない。たとえお金を積んでも取りかえることは難しい。日本語はかけがえのない母のことばなのである。

人間が社会の中で生きていき、他の人と交流するために、ことばは欠かせない。その中でも自分の思い・欲求を適切に表現して伝えるためには、母語として幼いときから身に付けたことばが、一番いい。外国語として後に習い覚えたことばでは、隔靴搔痒、十分に言い表すことが難しい。日本人はまだ実感がわかないようだが、母語で教育を受け、母語で社会生活を送れるのは、実は大変幸せなことなのである。日本語は世界数千の言語の一つにすぎない。ユーラシア大陸の東の小島で話されるのみである。しかし海外でも使われ、外国でも学ぼうとする人がいる。近代技術に対応した専門的術語も備え、日本語を通じてさまざまな情報が得られる。消滅の危機に瀕した言語に比べれば、恵まれた条件にある。国際化の動きにより、また英語の圧力により、最近、日本語の社会的勢力にはかけりが見られる。社会が変わればことばも変わる。日本語の話し手としては、現在の日本語の動きを観察して、よりよい方向に導き、大事に守り育てていく必要がある。

出典：井上史雄『日本語は生き残れるか―経済言語学の視点から―』PHP研究所 2001年

問一 傍線①「英語の圧力」とあるが、これはどういうことか。本文をふまえて、具体的に、五十字程度で説明しなさい。

問二 傍線②「日本語の生き残り」とあるが、筆者は「日本語」の現在と未来について、どのようにとらえているか。本文をふまえて八十字程度で説明しなさい。

問三 母語をまもることと日本語を習得することに関して、あなたの考えを述べなさい。

解答用紙

問一...B4判 (横書き) (60字)
問二...B4判 (横書き) (90字)
問三...B4判 (横書き) 39行罫

人文学科 日本文学文化専攻

① 出題のねらい

出典は井上史雄『日本語は生き残れるか』(2001年)。ある程度長さのある文章を読み、ことば・日本語・語学といったことをめぐって自分で考えることができるかを問う出題とした。問1は、文章中に出てくる語句の意味を、前後の内容や文脈を踏まえて理解できているか問うもの。問2は、やはり文章中のポイントとなる語句について、文章全体の解釈と併せて説明できるか問うもの。問3は問題文を手掛かりとして自分の考えを説得的に展開できるか、まとまった文章を書けるかを問うものである。

② 解答例

(問1) ことばの経済価値が高くグローバルスタンダードになっている英語により日本語が圧迫されているということ。

(問2) 現在は外国人の日本語使用が増大するなど日本語人気は高いが、未来については楽観していない。特に、日本人自身が日本語を捨ててしまうことを懸念している。

(問3) [解答例省略] (解説を参照)

③ 解説

(問1) 英語の有する「ことばの経済価値」、およびそれが「グローバルスタンダード」となっていること、そしてそのことが「日本語を圧迫」していることを文章からまとめることができなければ得点となる。

(問2) 筆者は「現在の日本語は人気がある状況にある」としつつも、「未来は楽観していない」点がつかめているかがポイント。具体的に「日本人自身が日本語を放棄してしまう懸念」まで示している部分まで踏まえた回答であると良い。

(問3) 作文・小論文の出題のため解答例は示さなかったが、「母語をまもる」とことと「日本語学習」ということの共通点や相違点について、具体的な事例や経験を踏まえて論じているかどうかが第一の要点。そのうえで、論の展開に説得力(論理性)があるかどうか、文章表現が適切であるかどうかにより評価する。帰国生入試という性質上、日本人にとっての外国語学習や外国人にとっての日本語学習の事例を盛り込んでいる場合も、論の展開にきちんと組み込んでいる限りは評価要素とした。

受験
番号

東京女子大学

2026年度 帰国生入学試験

現代教養学部 国際社会学科

小論文

次の文章は、大沼あゆみ「生物多様性を守るために―遺伝資源利用による利益の衡平で公正な配分」(山村則男編著『生物多様性どう生かすかー保全・利用・分配を考える』(昭和堂、2011年、137-176頁)の一部を抜粋したものです。文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

二〇〇七年二月、私は象牙取引の調査のため、南アフリカのクルーガー国立公園を訪れた。数日間、南アフリカ政府環境省の担当官に案内してもらい、この広大な保護区に滞在した。政府の保護官へのインタビューを行い、やがて来るかもしれない取引解禁の日に備えて、象牙などの取引禁止の対象となっている自然死した生物の部分が蓄えられている倉庫も見せてもらった。すべてのスケジュールが終わり、首都プレトリアに帰り、ホテルにチェックインした。シャワーを浴びて疲労と汗を洗い流すと、遅い夕食を取るためホテルのレストランに入った。冷えたビールを飲み、食事を終えると、コーヒーを飲みながら、レストランのなかをぼんやりと見渡した。レストランは空席が多く、遠く離れた席に三人連れの客がいるだけだった。その三人も食事が終わったようだ。

三人のうちの、一人の非白人の女性が、向かい合って座っている二人の白人の男女に何か話しているようだった。背筋を伸ばしてその話を聞いている二人の白人の様子を見ると、三人は友人という関係ではないことは明らかだった。

私はその浅黒い肌をした女性をぼんやりと見ていた。その肌に高級そうなダークのスーツがよく似合っていた。

ふと、その女性がときおり見せる、鋭い目と眉間にしわを寄せる表情に、私は既視感を覚えた。

(どこかで、この人を見たことがある。)しかし、どうしても思い出せない。

もしかししたら、と少しの確証を持ったのは、記憶の糸をたぐる作業を懸命に続けた、しばらく後だった。

三人は、席を立ちレストランの出口に向かった。私は、思わず席を立て、三人を追った。そして、白人の男性を呼び止めて、尋ねた。やはりそうだった。

彼女は、マリーナ・シルバだった。

マリーナ・シルバは、ブラジル・アマゾンにあるアクレ州の出身の政治家である。私が彼女を知ったのは、一九九九年に放送されたNHKのドキュメンタリー番組「欲望のアマゾン」であった。それは、アマゾンが、歴史のなかでその資源をどのように収奪されてきたかを描き出した番組だった。木材はもちろん、鉱石とゴムは収奪された代表的な資源だ。そして、現在注目されているのが遺伝資源だ。

シルバは、「ゴムの兵士の娘」として紹介されていた。ゴムの兵士とは、ブラジルがゴムの世界市場で独占的な供給者としての地位を占めていたとき、ゴム農園でゴムの樹液を採取する労働者を指していた。このゴム産業も、やがてゴムの種子が国外に持ち出され、東南アジアでプランテーションによる大量生産が行われたため、衰退することになる。

番組では、シルバが提出した法案が上院を通過したことが報じられていた。その法案は、生物多様性条約との関連で、遺伝資源へのアクセス規制を定めるものだった。不法に遺伝資源を持ち出す行為(バイオパイラシー)が、大きな問題となっていた。

受験
番号

東京女子大学

2026 年度 帰国生入学試験

現代教養学部 国際社会学科

小論文

2 / 5

この法案は、一九九五年に提出され、その後、ディアス上院議員との修正案となったもので、とくに外国企業がブラジルの遺伝資源を利用する際には、関連するすべての利害関係者と調印を行わなければならない、としていた。これより三年前の一九九二年に、ブラジルのリオアジャネイロで開催された地球サミットで採択された生物多様性条約では、遺伝資源の主権的所有権は原産国にあり、遺伝資源を利用するには、原産国の国内法に沿って、原産国の承認を得なければならないことが明記されていた。シルバの提出した法案は、生物多様性条約に基づく国内法にあたるものだった。

医薬品産業と遺伝資源

遺伝資源は、生物多様性を経済的に活用しようとするとき、もつとも注目されるもののひとつである。今日、使用されている薬の多くが、生物多様性と関わっている。米国では、上位一五〇の処方薬の五七％は、動物、植物、菌、バクテリアなどに関連している (ten Kate and Laird 1999)。生物多様性の豊かな熱帯雨林は、医薬品開発のための遺伝資源の発見が有望視される場所である。しかし、医薬品の可能性がすでに評価された植物は五％以下、動物ではわずか〇・一％である (Cox and Balke 1994)。また、極限環境と呼ばれる、塩湖、砂漠、洞窟、冷湧水、深海底の熱水噴出孔なども医薬品のための遺伝資源の存在が有望視されている (Wynberg and Laird 2007)。

世界の医薬品産業は高い成長率を示している。二〇〇六年の世界市場規模は六四三〇億ドルで、その成長率は七％である。世界市場のうち、北米とヨーロッパで八割弱を占める。また、年間の研究開発費は五五〇億ドルを超える (Laird and Wynberg 2008)。

これまで、数多くの画期的な医薬品が遺伝資源に基づき開発されてきた。たとえば、マダガスカル・ニチニチソウからは、小児白血病に劇的に効果のある薬が誕生した。この薬が開発されたことにより、小児白血病にかかる九〇％だった死亡率が二〇％に大幅に低下した。近年では、マレーシアのサラワク州を原産とするカロフィルムという樹木から、HIVに効果的な薬の開発が進んでおり、現在完成の最終段階にある。

ニチニチソウやカロフィルムのような、致死率の高い病気に効果がある薬だけではなく、美容に効果のある薬も開発が進められている。人間の美を求める欲求は大きく、美容面での薬は、先進国では高い利益が期待されるからである。このような薬で話題になったものは、アフリカのカラハリ砂漠を原生とする、サボテンに似た植物であるフーディアである。この植物は、食べると食欲を減退させる効果を持つことが先住民のサン族によって知られていた。サン族は、この植物を何日もかかって行う狩りのときに活用していた。空腹を抑えるためである。

南アフリカ政府の科学工業研究評議会 (CSIR) は、フーディアから食欲を抑える成分「P57」を発見し、イギリスの製薬会社Phosphatidにその特許を売却した。同社はその後、製薬会社のファイザーと食品会社のユニリーバ社にP57の使用権を許諾した。しかし、この過程で、サン族の人々の伝統的知識に対しては利益が還元されておらず、問題となった。その結果、フーディアを用いた生産物の売り上げの中で、CSIRが受け取る利益からの配分がサン族に認められることになった。ただし、それは売り上げのわずか〇・〇〇三％であった (McGown 2006)。

受験
番号

東京女子大学

2026年度 帰国生入学試験

現代教養学部 国際社会学科

小論文

マリナー・シルバの主張

「欲望のアマゾン」のなかで、シルバは提出した法案について、次のように説明していた。

この法案は、遺伝資源の略奪を防ぐためだけのものではない。森林を破壊しなくとも、アマゾンの人々の生活が成り立つようにするものだ。遺伝資源から得られる利益がアマゾンの社会に還元されるようになれば、アマゾンの人々は森林を切る必要がなくなる。これまで、牧場を作り、森林を破壊することを私たちは進歩だと考えてきた。しかし、この法案が通れば、森も人々の暮らしも護ることができるようになる。

①シルバは、単に熱帯林を保護することを求めているのではない。保護が必然的に生まれるメカニズムを内包している仕組みが必要であることを主張している。熱帯林を保全することが、伐採し開発するよりも金銭的に得になれば、誰も熱帯林を破壊しようとしな。保全する方が豊かな暮らしができるからだ。つまり、保全の経済的なインセンティブ（誘因）をうまく工夫して作り出してやれば、熱帯林の保全と経済的豊かさを両立させることができるのである。

生態系保全と経済的豊かさを追究することは、相反するものと考えられていた。しかし、その関係は、工夫されたシステムがあれば、逆に互いに補完し合い両立するものとなるだろう。遺伝資源を利用した医薬品開発は、まさにそのようなシステムとなる可能性を秘めたものである。

たとえば、アマゾンの森林を牧場や農地に転換したときに期待される利益は、たかだか一ヘクタール当たり数百ドルである（Beate 1998）。保全することで、これを上回る利益を生み出すシステムを生物多様性条約は可能にする。それが、遺伝資源利用に基づく、バイオプロスペクティングである。

バイオプロスペクティング——その仕組みと生物多様性条約

途上国が先進国の製薬会社と共同で、とくに自然から生物を採取して遺伝資源を探索し、医薬品や農作物の品種改良のための研究開発を行うプロジェクトをバイオプロスペクティングという。これは、バイオとプロスペクト（探索）の合成語である。

バイオプロスペクティングでは、熱帯林のような生態系から生物のサンプルを多数採取し、それらから医薬品として開発可能な構造物を見出すことが必要である。②途上国には、自然を利用した医薬品開発に必要な遺伝資源が豊富に存在している。さらに、それだけではなく、こうした自然を歴史的に薬として活用してきたことで蓄積された伝統的知識がある。この伝統的知識があることで、開発可能性の高い生物を採取の段階で選択し、成功確率を高めることができる。

ところが、医薬品は、遺伝資源だけで開発することは不可能である。採取したサンプルから、最終的に先進国で販売可能な医薬品として完成させるまでには、長い年月および膨大な研究開発資金が必要である。さらには、最新の設備と高度の専門知識を持つ多数の研究者も必要である。

受 番	験 号
--------	--------

東京女子大学

2026 年度 帰国生入学試験

現代教養学部 国際社会学科

小論文

4

/ 5

こうした条件は、途上国にとって満たすことが難しい。したがって、豊富な遺伝資源と伝統的知識を活用するために、これらの条件を提供できる先進国の製薬会社と共同で医薬品開発を行うことが必要となる。

さらに、途上国にとって先進国の製薬会社の力が魅力的な理由は他にもある。たとえば自身の力で医薬品開発に成功したとしても、その薬を先進国市場で展開するには、先進国の大手製薬会社のようなマーケティング力やブランド力がないため、消費者の需要をつかむことが難しい。

こうした理由で、途上国が医薬品開発に自国の遺伝資源を活用しようとする、先進国製薬会社の協力がどうしても必要となる。

バイオプロスペクティングでは、途上国は伝統的知識と遺伝資源を主に提供するが、サンプルの採取や研究開発の初期ステージも担当する。

最初のバイオプロスペクティングは、アメリカの製薬会社メルクと、コスタリカの生物多様性研究所 (ENBIO) の間で、一九九一年に二年間の契約で行われた（その後更新された）。メルクとENBIOによるプロジェクトの成功により、バイオプロスペクティングは広がった。

バイオプロスペクティングは、先進国企業と途上国間だけで行われるものにとどまらない。一九九七年に締結された米国のイエローストーン国立公園と同国のバイオテクノロジー企業 DIVERSA の事例のように先進国内の契約もある。また、米国国立癌研究所や英国企業 Biocis は、独自に自国固有の薬剤の研究をしている途上国の研究者グループと、新薬に用いる成分や遺伝子資源の探求を行っている国際的製薬会社をブローカーとして結びつけている (ten Kate and Laird 1999)。

バイオプロスペクティングを行おうとすると遺伝資源が豊かな生態系を保全することが必要となる。換言すれば、バイオプロスペクティングでは、保全を行うことで医薬品開発というビジネスを成立させているのである。その結果、途上国はいくつかの形態で利益を受け取る。

出典：大沼あゆみ「生物多様性を守るために―遺伝資源利用による利益の衡平で公正な配分」山村則男編著『生物多様性どう生かすか―保全・利用・分配を考える』（昭和堂、2011年、137-176頁）

受験
番号

東京女子大学

2026 年度 帰国生入学試験

現代教養学部 国際社会学科

小論文

5 / 5

設問 1 傍線部①「シルバは、単に熱帯林を保護することを求めているのではない。」とあります。では、彼女は法案の成立を通してどのような事を目指したのでしょうか。文章の内容に即して、100字以内で説明しなさい。解答は解答用紙1に記すこと。

設問 2 傍線部②に「途上国には、自然を利用した医薬品開発で必要な遺伝資源が豊富に存在している。」とあります。それにもかかわらず、途上国が遺伝資源を利用した医薬品開発を実現させることが難しいのはなぜですか。文章の内容に即して、200字以内で具体的に説明しなさい。解答は解答用紙1に記すこと。

設問 3 この文章では「バイオブロスベクティング」という手法が紹介されています。この手法にはどのような問題点があると考えられますか。あなたの意見を、500字以内で述べなさい。解答は解答用紙2に記すこと。

解答用紙

設問1...B4判（横書き） 8行罫

設問2...B4判（横書き） 17行罫

設問3...B4判原稿用紙（横書き） 1枚（500字）

国際社会学科

① 出題のねらい

遺伝資源（人類に役立つ遺伝情報を有する生物やその一部のこと）の大半は途上国に存在する。その利用は医療や農業などに大きな利益をもたらすが、その過度な利用は生物多様性を阻害しかねないことに加えて、先進国だけが利益を得て資源の所在国である途上国に利益が還元されないことが問題となっている。課題文を読んだ上で、途上国における医薬品産業の発展がなぜ、どのように難しいのか、生物多様性という観点がこの問題をどのように難しくしているのかを考えてもらうことをねらいとした。

② 解説

設問1は、ブラジルにおける森林保護やアマゾンの人々の生活を守る活動が続ける政治家の提出した法案の意図を問うものである。単に熱帯雨林を保護するのではなく、保護することが金銭的な利益につながるメカニズムの創設を目指すものであったことを理解していれば正解とした。

設問2は、自国に豊富な遺伝資源を有する途上国が、その遺伝資源を医薬品の開発に結びつけることが難しい理由を、課題文から明確に読み取ることができているかを問うものである。技術的な難しさに加えて、その医薬品を普及するためのマーケティング力やブランド力が必要であることを読み取ることができていれば正解とした。

設問3は、「バイオプロスペクティング」という言葉を理解しているかを確認するとともに、その問題点を論じてもらうものである。先進国と途上国の利益配分における公平性、先進国と途上国の経済負担の割合、プロジェクトにとどまらず産業として発展させることの難しさなど、問題点を見つけ具体的に論じることができているかを確認した。

受 験 番 号	
------------	--

東 京 女 子 大 学
2026 年度 帰国生入学試験

現代教養学部 経済経営学科

小論文

1 / 1

【問題】

世界の多くの国々において、インバウンド・ツーリズムが振興されている。わが国においても、コロナ禍以降、訪日外国人旅行者数と消費額が増加している。インバウンド・ツーリズムが国や地域に与える経済的な影響について、1,000字以内で記述しなさい。

経済経営学科

① 出題のねらい

ツーリズム（旅行）は身近な余暇活動であり、また、訪日外国人旅行（インバウンド・ツーリズム）は話題性のあるテーマである。旅行行動が国や地域の経済にどのように結びついているのかを検討することを通じて、身近な活動と経済の関係についての理解度や考察力を確認する。

② 解答例 ③ 解説

以下の項目についての記述が、具体例や根拠を伴ってなされること。最後に、インバウンド・ツーリズムが国や地域にもたらす経済的メリットを最大化するために、どのような課題があるのかについて、自身の考えを記述することが望ましい。

項目	標準的な解答例
インバウンド・ツーリズムの定義	ツーリズムは非日常圏に出かけて滞在を楽しむ人々の行動。 外国人旅行者を受入れることがインバウンド・ツーリズム。
インバウンド・ツーリズムに関する自身の知識	訪日外国人旅行者数の増加等を記述。 オーバーツーリズム等の負の影響や、自然災害や政情不安等によって外国人旅行者が減少するリスクにも言及することが望ましい。
ツーリズムの特徴	地域固有の多様な資源をマネタイズする、交通・食事・宿泊・旅先での活動等の複数のサービスから成り立っており多くの産業に影響を及ぼす等、経済的影響を検討する前提となる特徴を記述。
インバウンド・ツーリズムの国への経済的影響	外国人旅行消費は、モノの輸出と同様に、国外で生まれた富を獲得する効果がある。多くのサービスから成り立っているツーリズム産業は多様な雇用機会を生んでいる。
インバウンド・ツーリズムの地域への経済的影響	交流人口による旅行消費は、定住人口の減少による域内の経済活動の低下を補う。長期滞在や地産地消の促進等の工夫によって、旅行消費額を増加させるとともに、域内で循環させ、多くの地元企業に行き渡るようにできる。

受 験 番 号	
------------	--

東京女子大学
2026年度 帰国生入学試験

現代教養学部 心理学科

小論文

1/8

問題 1

以下の文章を読み、問いに答えなさい。

話す声には、“言語の音”だけでなく、話し手の感情に由来する抑揚も含まれています。話された言葉に対して適切に応じるためには、そこに含まれる“言語の音”を聞き取って、どのような内容のことが話されたかを理解するだけでなく、話し手がどのような気持ちでその言葉を言ったのかまで考えに入れる必要があります。その意味では、話し声に含まれる感情を読み取ることも、日常のコミュニケーションにおいては重要になってきます。しかし、そのようなことは、さまざまな音が含まれる“話し声”の中から、やっと“言語の音”を聞き取ることができるようになった幼い子どもにとっては簡単なことでないかもしれません。

それに関連して、私が思い出す場面があります。ある夕方、買い物でスーパーマーケットの中を歩いていたときのことです。保育園の帰りとおぼしき4歳か5歳くらいの女の子と父親とのあいだの次のような会話が聞こえてきました。

娘「今日ね、お昼(ごはん)残しちゃったの」

父「えー、お昼残しちゃいけないんだよ」

読者の皆さんは、このときの父親の話し方はどのようなものだったと想像されたでしょうか。“怒って娘を叱りつけ (a) 非難する父親”でしょうか。もっとも、「しちやいけないんだよ」という口ぶりは優しさも感じさせますので、“やさしく娘を諭す父親”でしょうか。

実は、この場面で父親は、「お昼残しちゃいけないんだよ」という言葉を明るくはずむような調子で言ったのです。私から見れば、父親はとても嬉しそうで、なんだかほほえましく感じられたものです。

しかし、よく考えてみれば、ここで父親が発言した言葉の内容(言語内容)は非難に近く、それと (b) 齟齬なく対応する感情とえば“嬉しい”よりは“怒っている”だったのではないのでしょうか。このように考えると、このときの父親の発言の言語内容は、話し方とのあいだに齟齬があったと言わざるをえません。このような発言を娘の方はどのように受け取ったのでしょうか。

このように言語内容から推察される感情と話し方から読み取れる感情が一致しないように思われる場合、大人ならたいてい、話し手の本当の気持ちは話し方の方に表れていると判断するようです。確かに私たちは自分の失敗に対して、周囲から明るい声で「やっちゃった」と言われれば、自分のやってしまったことは取返しのつかないほどひどい失敗ではなかったのかもしれないと希望を持ちます。あるいは、「それはいいですね」と言われても、それがひどく (c) 不機嫌そうな話し方であれば、その話し手は本当は「良い」とは思っていないのではないかと私たちは疑うでしょう。

問題は、子どもも大人と同じなのか、ということです。特に小さな子どもは生まれてこのかた、さまざまな音が含まれる話し声の中から“言語の音”を聞き取ろうと奮闘努力してきたはずで、このような幼い子どもにとって、“言語の音”以外の声の調子などに注意を向けるのは難しかったりするのではないのでしょうか。

言語内容から推察される感情と話し方から読み取れる感情が一致しない発話(不一致発話)を聞いたとき、聞き手は言語内容と話し方のどちらにもとづいて話し手の気持ちを考えようとするのか。この問題を調べるのによく使われてきた方法は、(d) 肯定的もしくは否定的な気持ちを表す単語や文が、肯定的または否定的な (e) 口調で話されるのを聞いてもらい、話し手の感情はどのようなものかを答えてもらうというものです。

受 験 番 号	
------------	--

東 京 女 子 大 学

2026 年度 帰国生入学試験

現代教養学部 心理学科

小論文

2/8

池田慎之介さんと筆者もこの方法をつかって、子どもが不一致発話を聞いたとき、話し手の気持ちをどのように考えるのかを調べることになりました。そのためにまず、母親が子どもを褒めるような肯定的な内容の文(「大好きだよ」「とっても上手だね」「なんていい子なの」)と、けなしたり非難したりする否定的な内容の文(「大嫌いだよ」「ほんとに下手くそだね」「なんてダメな子なの」)を用意しました。そしてプロの声優(女性)に依頼して、それらの文が言語内容と一致した感情の口調で話される音声(一致発話)と不一致な口調で話される音声(不一致発話)を録音しました。

こうして、一致発話としては、肯定的な内容の文が嬉しそうな口調で話されたものと否定的な内容の文が怒った調子で話されたものの2種類が、また不一致発話としては、褒めている内容の文が怒った口調で話されているものと、否定的な内容の文が嬉しそうな口調で話されているものの2種類が用意されました。特に不一致発話は、大人が聞けば、話し手の本当の気持ちはその口調に表れた感情のほうだとたいてい判断するくらい、口調の感情抑揚がはっきりしたものでした。

調査対象は保育園の3歳クラスから小学校3年生までの子どもたちです。子どもたちには、録音して用意してあった音声を聞いてもらい、話し手の気持ちを、女性がにっこりしている写真と同じ女性が怒った顔をしている写真の中から選んで答えてもらいました。ここで子どもが内容は否定的であるのに口調は嬉しそうな発話音声を聞いて笑顔の写真を選べば、その子どもは話し手の気持ちを言語内容ではなく口調から読み取ったと見なせます。

結果として、口調にもとづいて話者の気持ちを判断した率は図4-1のグラフのようになりました。調査を実施した時期の関係で、それぞれの学年の子どもたちの平均年齢は、保育園の3歳クラスの子どもの場合は3歳後半、4歳クラスは4歳後半、5歳クラスは5歳後半、小学1年生は7歳前半、2年生は8歳前半、3年生は9歳前半でしたので、グラフにもそのように記してあります。

(中略)

実は、同様な結果は、それ以前に北米で行われた研究でも見いだされており、口調より言語内容にもとづいて話し手の気持ちを考えようとするこの傾向はレキシカルバイアス(lexical bias)と呼ばれてきました。北米の子どもはそうかもしれないけれど、日本は違うのではないかな。日本の文化については、はっきり言葉で言われなくても全体的な文脈や雰囲気などから相手の気持ちを読み取って行動することが求められるといったことが指摘されるくらいですので、そのような環境のもとで育つ子どもたちは、不一致発話を聞いたときもう少し口調に敏感に反応するのではないかな。そのような期待が筆者たちにはあったのですが、必ずしも期待通りの結果にはなりませんでした。

そうすると、このレキシカルバイアスは、どのような文化のもとであろうと子どもが育っていく途中で見られる特徴的な現象ということなのかもしれません。やはり幼児期の子どもは、話し声の中の“言語の音”を聞き取り理解するのが精一杯であるために、同じ話し声の中の感情抑揚には注意が向かないということなのではないでしょうか。確かに、会話をすることは、何が話されたか(言語内容)をまずは聞きとるということです。そうやって、いつも言語内容に注意を向け続けていけば、そこから言語内容ではなく口調の方へと注意を切り替えることなど、特に小さな子どもにとっては簡単ではないのかもしれない。

(中略)

受 験 番 号	
------------	--

東京女子大学

2026 年度 帰国生入学試験

現代教養学部 心理学科

小論文

3/8

「不一致発話から話し手の気持ちを推測しようとするとき幼児はなぜ口調より言語内容の方を重視するのか」です。

幼児は口調から話し手の気持ちを読み取ることができないのかと言えば、もっと幼い乳児でも賞賛(励まし)と制止(緊張)くらいは読み取れるわけですし、同じことが幼児にできないとは思われません。

しかし、発話を聞かされて話し手の気持ちを問われるとき、そこで求められているのは、その口調が OK なのかそうでないのかを単純に区別することだけではありません。その口調から読み取れる感情は客観的に見て、嬉しがっているとか怒っているなど具体的な感情のどれなのかを判断することです。そして実際、(言語内容なしに)口調だけを聞いて話し手の感情はコレだと判断することは、幼児にとって簡単ではないようです。

そのことを調べるために、前に紹介した筆者たちの研究では、一致発話や不一致発話にフィルターをかけて[註1]“言語の音”は聞き取れなくした音声刺激(フィルター音声)を作成しました。そしてそれを子どもに聞かせて、その話し手の気持ちについても答えてもらいました。図 4-1 のグラフにフィルター音声の正答率を描き加えたものが図 4-2 です。

フィルター音声とはいえ、声の強さや高さの変化、つまり抑揚はわかります。ですから、この研究で使ったフィルター音声も、大人なら 80% 以上の確率で話し手の感情を正しく答えることができるものでした。しかし、図 4-2 のグラフを見ればわかるように、5 歳くらいまでの子どもたちの正答率はやっと 50% を超えるくらいです。このように特に就学前の子どもにとって、声の調子から話し手の感情を読み取ることは実際それほど簡単なことではなく、ほかの研究でもこのことは確認されています。口調から感情を読み取る能力がこの程度であれば、口調を根拠に不一致発話の言語内容を、自信をもってひっくり返すことなどできないでしょう。

幼児がなぜレキシカルバイアスを示すのかについては、もう一つ、言語内容から口調へと注意を切り替えることが難しいためではないかということも指摘されています。そもそも会話をするには、話し声の中の“言語の音”に注意を集中し、言語内容を追い続ける必要があります。不一致発話の話し手の気持ちを口調にもとづいて推測するためには、この“言語内容への集中”から抜け出し、口調へと注意を切り替えなければなりません。

アメリカの心理学者ワクサーとモートンは、不一致発話を材料にして、6 歳児が言語内容から口調へ、あるいは、口調から言語内容へとどれだけうまく注意を切り替えられるのかを調べています。口調から言語内容への注意の切り替えを調べる時には、最初に、感情的に中立な内容の文(e.g., 「お父さんは眼鏡をかけている」)が嬉しそうな口調あるいは悲しそうな口調で話されるのを聞かせて話し手の気持ちを答えてもらい、子どもの注意が口調に向くようにしました(口調へのプライミング)。このようにすると、これに続く第一課題で不一致発話を聞かせたときも、子どもは話し手の気持ちとして言語内容ではなく口調に表れた感情を答えるようになります。ここまでやった上で、次の第二課題では「今度は新しいゲームだよ」と言って、「話し手の声の調子がどんなふうか(“How the speaker's voice sounded.”)」ではなく「話し手は何を言ったか(“What she was saying.”)」にもとづいて話し手の気持ちを答えるよう求めました(“Judge whether she was feeling happy or sad”)。しかし、ここで口調から言語内容へと注意を切り替えられた率は 50% に届きませんでした。そして、このような“切り替えの難しさ”は、最初に言語内容にプライミングして、第一課題でも言語内容にもとづいて話し手の感情を答えてもらったあと、第二課題で今度は言語内容ではなく口調に注意を向けて話し手の気持ちを答えるよう求めたときにも見られたのです。

このような研究を見ると、話し声の別の側面へと注意を向けかえることの難しさは確かにレキシカルバイアスの一因になっているように思われます。

[註1] 発話音声の 400Hz 以下の部分だけ取り出して作成しました。こうすると、もとの発話の言語内容が「大好きだよ」だったとしても、「んーんんん」といった音になってしまい、何を言っているかはわからないものの声の強さや高さの時間にもとまらず変化だけはわかるといった音声になります。

受験番号	
------	--

東京女子大学
2026年度 帰国生入学試験

現代教養学部 心理学科

小論文

4/8

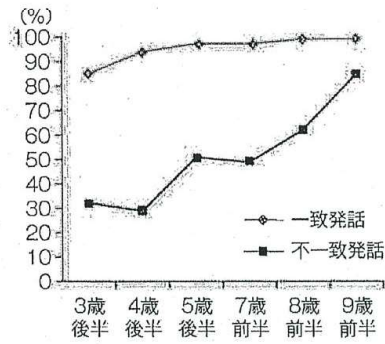
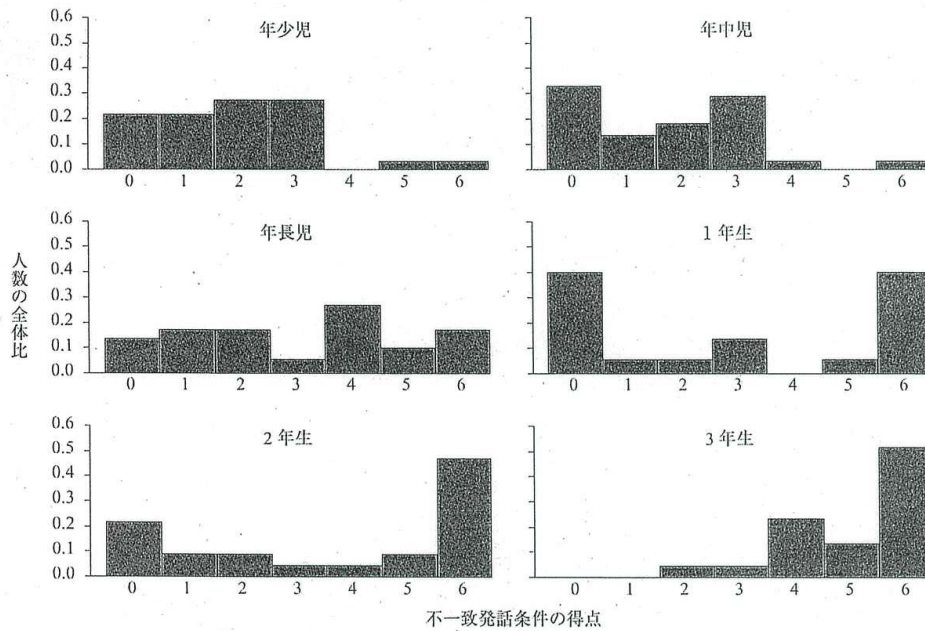


図 4-1 “話者の気持ち”として口調に対応した表情写真を選択した率



年少児(3歳後半)
年中児(4歳後半)
年長児(5歳後半)
1年生(7歳前半)
2年生(8歳前半)
3年生(9歳前半)

Figure 1. 各学年における不一致発話条件のヒストグラム。

受験
番号

東京女子大学
2026年度 帰国生入学試験

現代教養学部 心理学科

小論文

5/8

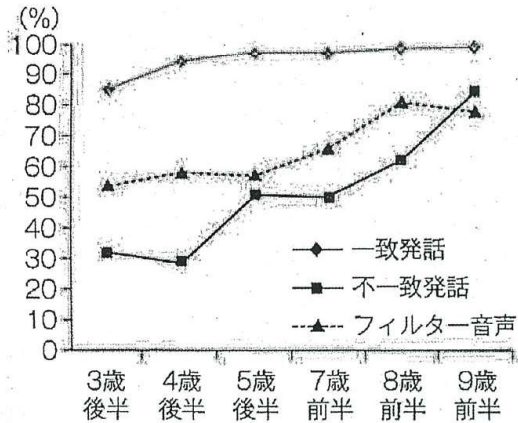


図 4-2 口調に対応した感情の表情写真を選んだ率

出典：針生悦子(2021)『ことばの育ちの認知科学』新曜社（原文の一部を省略）

Figure1 の出典：池田慎之介・針生悦子(2018)「幼児期から児童期の子どもにおける発話からの感情判断の発達」心理学研究,

89(3), pp.302-308

問題 1

解答は、この用紙ではなく、解答用紙(別紙)に記入すること。

問 1 下線(a)～(e)の読みを答えなさい。

- (a) 非難
- (b) 齟齬
- (c) 不機嫌
- (d) 肯定的
- (e) 口調

問 2 図 4-1 と Figure1 は、池田らの研究の結果を示すグラフである。

- (1)図 4-1 を読みとり、説明しなさい。
- (2) Figure1 を読み取り、説明しなさい。

問 3 子どものレキシカルバイアス(lexical bias)とは何か、日本語で説明しなさい(200 字程度)。

受験
番号

東京女子大学

2026 年度 帰国生入学試験

現代教養学部 心理学科

小論文

6/8

問題 2

以下の英語の文章を読み、問いに答えなさい。

A young child can tell when someone is just teasing.

Four-year-old Michael's grandmother had a game she really enjoyed playing with him when he was in a bad mood. If Michael sulked or acted angry, she would say "Oh! I hear something at the window! It might be the bear that eats bad boys." She would go to the window and peek out cautiously, telling Michael, "I'm not sure, but I think I see him out there. There's something furry just around the corner." The grandmother thought this was a funny way to put Michael back in a good humor, and would elaborate on her story at length. But to her surprise and annoyance Michael did not think it was funny, became even more distressed, and would run to his father if possible. The grandmother was disgusted with this behavior and said to Tom, Michael's father, "He knows perfectly well that I'm just teasing. He just likes to put on a drama and get your attention." Tom knew Michael's moods pretty well and thought the child was really upset, but at the same time he couldn't imagine that Michael thought his grandmother was serious about bears in an urban neighborhood.

Could Michael tell that his grandmother was teasing him when she talked about bears?

Teasing is a form of social interaction in which one individual, the teaser, makes statements to another, the teasee, which the teaser represents as true although he or she knows they are false. These statements may refer to events that the teasee would like, but which are actually not going to happen, or to events the teasee fears or dislikes, but which again are not going to happen. The teasee's confusion and concern provide amusement for the teaser, and mild and familiar forms of teasing may be amusing for the teasee as well. However, teasing about serious matters may be distressing for the teasee. Adults generally tease children rather than the other way around, and an adult may be offended or annoyed by a child's display of distress when teased, rather than sympathetic or apologetic. Adult teasing of children may be a form of veiled hostility in response to a child's bad mood, as in the case of Michael's grandmother.

It would be impossible to tease a normal adolescent or an adult by talking about bears in an urban setting. The older individual knows not only that bears are rarely found in residential areas, but that it is possible for people knowingly to make false statements with intentions other than to communicate information. The older person has mastered Theory of Mind, a way of thinking about others' behavior that interprets the behavior in terms of what the other person knows, wants, and intends. Although toddlers understand to some extent that people's actions are affected by their beliefs (Onishi & Baillargeon, 2005), they are far from having a complete understanding of what others want or believe.

受験
番号

東京女子大学

2026年度 帰国生入学試験

現代教養学部 心理学科

小論文

7/8

Even preschool children are only beginning to understand that behavior is shaped not only by what another person wants, but by what they know or do not know, and that false statements can be made intentionally even though the speaker knows they are false. Because that understanding is not yet well-developed, preschool children are easily teased to the point of distress. They only gradually develop the ability to understand others' intentions and knowledge.

One important study devised a scale that assessed how well a child's theory of mind had developed (Wellman, Fang, & Peterson, 2011). The authors considered skills that a preschool child had to attain before being able to interpret others' intentions reasonably well. The skills developed in a predictable order. First, children became capable of understanding diverse desires—that different people might want different things with respect to the same object, for example something to eat that one liked and the other did not. Second, they come to understand that people may believe different things about something—for instance, thinking that something is good to eat or not good to eat—even though the child does not know which one is right. Third, they learn that a person who does not have access to knowledge (for example, not being able to see what is in a box) does not know for sure what someone else can know if he or she has access to knowledge. Fourth, preschool children come to be able to judge whether another person does or does not know something that the child does know. The final step in this progression is that the child knows that people can hide their emotions and that their behavior does not necessarily indicate what they really feel or want.

How is this theory of mind scale related to teasing? Children who do not understand diverse desires will be confused by the apparent attitudes of a teaser toward events the child either wants or fears and dislikes. The teaser's apparent nonchalance about these emotionally colored events will be in particular contrast to the sensitivity and responsiveness of caregivers that are an important part of early relationships. Children who do not understand diverse beliefs would not be able to interpret a teasing statement that contradicts their own beliefs. Children who have not yet grasped the roles of lack of knowledge or of false beliefs will not be able to understand that an adult could accidentally or intentionally make an inaccurate statement. And children who do not understand that emotion can be hidden or simulated will not understand the apparent blandness or cheerful manner of an adult who is talking about what should be a distressing subject.

A further step in the development of theory of mind seems necessary for an explanation of preschooler's responses to teasing. When do young children learn that people can want to trick or fool others, for reasons of their own? A study by Vanderbilt, Liu, and Heyman (2011) looked at children's ability to learn from experiences of seeing an actor pretend that he or she did not know where something was and mislead another person who was looking for the object.

受 験 番 号	
------------	--

東京女子大学

2026 年度 帰国生入学試験

現代教養学部 心理学科

小論文

8/8

Three-year-olds in this study were trusting of the information they got from adults, and it did not matter very much to them whether they had seen the actor trick people by giving them false information, or help them by giving correct information. Both 4-year-olds and 5-year-olds trusted the "helpers" a bit more than the "trickers," but only the 5-year-olds could correctly describe as "nice" the helpful people rather than the tricking people. That individuals may be trustworthy or untrustworthy as a rule is a concept that comes into play only toward the end of the preschool period, so it is not until that time that children are likely to understand that one person characteristically teases and should not be taken seriously.

Does the gradual development of theory of mind mean that nobody should ever tease preschoolers? Can children learn anything from experiences of teasing? There seems to be little that is positive in a situation where adults get angry when a child they have teased is upset, and a child who experiences this may learn to distrust the teasing adult in general, or to imitate that adult by teasing younger children. However, mild teasing is not very far from pretending, and pretend play is an important achievement of the preschool years. Pretending and mild teasing may be ways to practice theory of mind and to develop greater empathy with others' thoughts and feelings.

出典：Used with permission of SAGE College, from Thinking Critically About Child Development by Jean Mercer, Stephen D. A. Hupp, Jeremy Jewell, Fourth Edition, 2019; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

問題 2

解答は、この用紙ではなく、解答用紙(別紙)に記入すること。

問 1 この英語の文章に出てくる, Michael は, 祖母のからかいを本当のことと受け取っています。Michael が, からかいだとわかるためには, どのようなことが理解できる必要があると述べられていますか。

日本語で解答しなさい。

解答用紙

問題1

問1 (a)～(e)...B4判 (横書き) 5行罫

問2 (1)...B4判 (横書き) 8行罫

(2)...B4判 (横書き) 8行罫

問3...B4判原稿用紙 (横書き) 1枚 (500字)

問題2

問1...B4判 (横書き) 24行罫

心理学科

問題 1

① 出題のねらい

針生悦子著『ことばの育ちの認知科学』（新曜社, 2021 年）からの出題。幼児が口調よりも言語内容にもとづいて話し手の気持ちを考える傾向が強いことについて、心理学の実験結果から考察したものである。問 1 では、漢字の読みが正しくできるかをみる設問である。問 2 では、心理学の実験結果を示したグラフの読み取りが適切にできるかどうかをみる設問である。問 3 は、文章を読み取り、子どものレキシカルバイアスについて説明することができるかをみる設問である。

② 解答例

問 1 (a)ひなん (b)そご (c)ふきげん (d)こうていてき (e)くちょう

出典：針生悦子（2021）『ことばの育ちの認知科学』新曜社

問題 2

① 出題のねらい

Mercer らの Thinking critically about child development からの出題。からかいについての子どもの理解について英語で書かれた文章である。心理学では英語の文献を読むことが多いため、英語の文章を読んで内容を把握し、日本語で表現することができるかどうかをみるための設問である。

出典：Used with permission of SAGE College, from Thinking Critically About Child Development by Jean Mercer, Stephen D. A. Hupp, Jeremy Jewell, Fourth Edition, 2019; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.